

「誘客多角化等のための魅力的な滞在コンテンツ造成」実証事業 提案書

※ピンク色のセルに記入してください

提案する事業の名称		まちの駅ネットワークを活用した観光資源の磨き上げと案内人のスキルアップ	
1. 実施体制	(1)実施主体	まちの駅ネットワーク高岡	(2)代表者名 会長 竹中靖治
	(3)所在地	〒933-0029 富山県高岡市御旅屋町101番地 御旅屋セリオ6階 末広開発(株) まちづくり事業部内	
	(4)担当者名	事務局 宝田昌一	(5)電話番号 (0766)20-0555、携帯 090-5172-9157
	(6)メールアドレス	tmo02@pl.coralnet.or.jp	
	(7)連携する地方公共団体	高岡市	(8)代表者名 市長 高橋正樹
	(9)所在地	富山県高岡市広小路7番5号	
	(10)担当者名	産業振興部観光交流課 課長 長井剛志	(11)電話番号 (0766)20-1300
	(12)メールアドレス	t-nagai01@city.takaoka.lg.jp	
	その他連携する団体、民間企業等	富山県まちの駅連絡協議会、NPO法人富山観光創造会議、まちの駅ネットワーク黒部、全国まちの駅連絡協議会、NPO法人地域交流センター	
2. 対象地域 (市区町村単位)		富山県高岡市	
3. 取組について			
1)取組の概要	本事業で行う取組の概要	<p>・本事業は、まちの駅ネットワークとの連携による多様な観光メニューの創出、協働活動による情報発信力の強化、まちの駅を運営する駅長やまちの駅案内人のスキルアップを目的とする。</p> <p>1. 観光イベントの実施・観光資源の磨き上げ (1)まちの駅観光モニターツアー＆ワークショップの実施(3回予定) コロナ禍対応の観光資源の磨き上げを行うため、まちの駅ネットワークを活用した少人数の観光プランを作成し、以下の趣旨で、近隣及び県内のまちの駅メンバーによるモニターツアー＆ワークショップを行う。 ①よそ者目線による観光資源の発掘 ②富山県内のまちの駅連携による観光資源の磨き上げ ③県外のまちの駅ネットワークとの連携強化 (2)アンケート調査 ・アンケート調査を行い、本事業の成果と今後の課題を抽出する。アンケートの結果や事業で得られた知見は、「全国まちの駅連絡協議会」を通じて全国のまちの駅メンバーに発信、共有化と活動のPRにする。</p> <p>2. 情報発信・プロモーションの実施 (1)ICTを活用した情報発信力向上のためのセミナー ・継続的な情報発信のために、SNS発信のスキルアップセミナーを行う。TwitterやInstagramの活用について、実際のまち歩きを行いながら体験し、ノウハウをマスターする。モニターツアー＆ワークショップに合わせて開催する。 (2)他県まちの駅とのバーチャル観光の施行 ・コロナ禍によって外出を控えている傾向があり、自宅で完結できるバーチャル観光の可能性を検討する。動画を作成し、各地のまちの駅と連携して実験的に試行する。 (3)パンフレットの作成 ・ワークショップの成果をパンフレットにまとめて、富山県内及び近隣各まちの駅、さらには全国のまちの駅ネットワークに配布する。</p>	
2)実施体制	実施体制を構成する各団体が想定される役割 (各団体における担当者名、連絡先等を記載すること。)	<p>・まちの駅ネットワーク高岡 宝田昌一 (0766)20-0555 《企画・全体運営》 ・高岡市産業振興部観光交流課 長井剛志 (0766)20-1300 《運営協力》 ・富山県まちの駅連絡協議会 伏江努 (0766)21-4700 《企画・運営協力・連絡・調整》 ・NPO法人富山観光創造会議 沖崎守昭 (076)407-0521 《企画・運営協力》 ・まちの駅ネットワーク黒部 滝本あかね (0765)52-0242 《企画・運営協力》 ・全国まちの駅連絡協議会事務局 本原幸夫 (03)5823-4190 《全国のまちの駅連絡・調整》 ・NPO法人地域交流センター 橋本正法 (03)5823-4190 《アンケート・成果のまとめ》</p>	
3)「新しい生活様式」の実践	(1)業種ごとに作成された感染防止ガイドラインを遵守するための具体的な体制や取組 ※参考とするガイドライン等を明記すること  (2)本事業における取組が、他の観光施設、観光商品等に対するケーススタディとして、「新しい生活様式」の実践を意識した取組の実装、定着に資すると考えられる点	<p>・まちの駅ネットワークは様々な業態があるので、各業態のガイドラインを参照して、共通部分の対策と業種ごとに違いのある対策を整理して、各まちの駅で共有する。 ・参照するガイドラインは「商店街における感染症防止対策に向けた基本的な指針(全国商店街振興組合連合会)」、「宿泊施設における新型コロナウイルス対応ガイドライン(全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会ほか)」、「食品産業事業者の従業員に新型コロナウイルス感染者が発生した時の対応及び事業継続に関する基本的なガイドライン(日本フードサービス協会ほか)」。</p> <p>・まちの駅の構成メンバーは比較的に開業から歴史の長い店(企業)が多いので、これまでの幾多の困難を乗り越えた「新しい生活様式」のノウハウとして伝授する。 ・まちの駅という地域内の小さな溜まり場を有機的に活用する。情報を共有することで来訪者のエリア内の分散化を推進することが可能。 ・少人数でニーズに合わせた観光プラン作りを行うことで、感染リスクを回避するとともに、リピーターや関係人口の創出・拡大につなげることが期待できる。</p>	
4)骨太の方向性・ストーリー性	(1)地域におけるこれまでの具体的な誘客の取組  (2)地域における、withコロナ・afterコロナ期の具体的な今後の展望	<p>・高岡市のまちの駅は、平成12年4月に民間で最初となる「まちの駅たかおか」が誕生した。その後、趣旨に賛同する人々により、平成17年10月に「まちの駅ネットワーク高岡」として活動を開始、主な取り組みとして、「おもてなし貸し傘」、「地域イベントへの参加」、「まちの駅めぐりスタンプラリー」などがある。 ・富山市のまちの駅は、平成14年10月、官民の有志によるまちづくりの勉強会として「富山観光創造会議」が発足、2年後に特定非営利活動法人となり、6つの分科会で民間活動を始めた。活動の中核として「まちの駅駅長会」がまちの駅ネットワークを運営している。主な取り組みとして、「街なか学習プログラム」、「富山まち大学」などがある。 ・黒部のまちの駅は、平成19年度より黒部商工会議所の黒部元気委員会で協議を開始し、平成21年度に「まちの駅ネットワーク生地」が、平成22年度に「まちの駅ネットワーク三日市」が設立した。現在は「まちの駅ネットワーク黒部」として合同で活動を行っている。主な取り組みとして、「まちゼミの開催」、「地域イベントへの参加」、「まちなびカードの設置」、「商店街の活性化活動」などがある。 ・富山県まちの駅連絡協議会は、平成27年に開催した「まちの駅全国フォーラムin富山」を契機に結成し、3地域の緩やかなネットワークをスタートさせた。それぞれが特長を持った観光資源を有しており、相互の地域訪問、観光資源視察、情報交換を行っている。</p> <p>・北陸新幹線の開通により首都圏からの観光客を主なターゲットにしてきたが、コロナウイルス感染防止のために、首都圏からの来訪を控える必要が生じている。 ・3密を避けるために、安・近・短を主眼としたショートトリップの需要が高まると考えられる。気軽に行ける近場の魅力を歴史あるまちの駅を通じて発信し、県内及び近隣県のマイクロツーリズムを活性化させる。 ・地域の安全性を確保しつつ、安全であることを全国のまちの駅を経由して発信できるようにする。</p>	

	<p>(3)これまでの取組と本事業における取組、および今後の展望において一貫しているストーリー性・テーマ性</p>	<p>・高岡市は歴史とものづくりのまちであり、「まちの駅ネットワーク高岡」には、伝統産業の高岡銅器や高岡漆器をはじめ、お酒・味噌・醤油・土産物・和菓子・飲食・旅行会社・観光案内所・歴史資料館など、多様な業態が加盟している。          ・富山県内の歴史・文化観光の拠点である高岡市でこれまで気づかれていなかった観光資源を発掘し、まちの駅を通じて発信していく。また、特性が異なる富山県内の他の地域(富山市、黒部市)のまちの駅との連携し、それぞれが持つ地域の個性を知ってもらうことで、富山観光の奥の深さを知ってもらい、再訪につなげていく。</p>
<p>5)新規性・独自性</p>	<p>(1)地域の観光資源を活かす工夫          ※地域の観光資源の見直しを踏まえて記載すること</p> <p>(2)新しい旅行需要の開拓につながる工夫          ※withコロナ期等を意識した取り組みについて記載すること</p> <p>(3)他の観光地との差別化を図る工夫</p>	<p>・まちの駅は本業を持ちながらの活動であり、それぞれの生業をもっているまちの駅が少なくない。これまでは、そうした生業を観光資源にすることが少なかったため、まちの駅ネットワークメンバーの共有資源としての活用方法を考え、実践する。          ・モニターツアーに参加した県外のまちの駅関係者からみた富山の魅力や、自分の地域のまちの駅とのコラボ企画提案等を掲載し他パンフを作成し、まちの駅同士の関係性強化につなげるように工夫する。</p> <p>・まちの駅ネットワークを活用して、少人数での多様な受け入れを可能にしていく。          ・地域住民を対象としたまちなか観光の促進を図る。コロナ禍で家に引きこもり状態が続く高齢者には認知症の進行が進んでいるという指摘もされている。「まちの駅」をとまり木としたプチ観光コース設定し、安全で安心な外出を促進する。</p> <p>・地域資源は地元の方にその魅力に気が付かない場合が多い。全国のまちの駅仲間や都会の若者の協力を得て、富山県内の地域資源の魅力の再発見や埋もれた資源の発掘を行う。          ・「まちの駅」我が店の自慢の逸品紹介を行う。高岡市内や富山県内に限定せず、他県のまちの駅の自慢の逸品も紹介することで、地元でも非日常的な観光気分を味わえる工夫をすること等、バーチャル観光の可能性を検討する。</p>
<p>6)具体性及び計画性</p>	<p>(1)地域の現状・withコロナ期等における課題          ※具体的なかつ明確に記述すること</p> <p>(2)訴求対象・ターゲット          ※withコロナ期等を意識した上で明確に記述すること</p> <p>(3)本事業がwithコロナ期等の課題に対する有効な解決策である点</p>	<p>・高岡を中心に富山県内の観光資源を磨くために、高岡の観光資源のよそ者の目で見直してみる。その上でネットワークしている富山市、黒部市の観光資源とのマッチングによる魅力拡大化を検討する。さらに、近隣県のまちの駅との連携方を模索する。          ・PR戦略として、全国のまちの駅ネットワークを生かした情報発信の具体化に向けた検討を行う。アフターコロナを視野に、全国のまちの駅との遠距離連携を模索する。具体的手段として、食と映像、オンライン交流、等を実験的に試行する。          ・富山県では北陸新幹線開業に伴い首都圏との距離感が大幅に短縮された。隣町感覚が生まれており、安・近・短の物差しも変化している。コロナ禍によって、首都圏からの来訪者も激減している。          ・新高岡駅は飛越能の玄関口として多数の乗降客があるが、市内への観光誘導につなげていない。日本遺産やまちの駅活用を活用して、市内のプチ観光を誘導することが課題となっている。          ・黒部市等の感染者ゼロ自治体ではいよいよ外出を控える傾向にある。自分も出かけない、外部からも入れないという閉塞的考えが強まり、地域経済活動をますます停滞化させている。地域間で連携したバーチャル観光によって地域経済の刺激策とする可能性を検討する。</p> <p>・当面は移動が制限されると考えられるので、近隣の短期旅行者をターゲットにする。その場合、富山県外の食材を使った食事の提供なども考えられる。          ・高岡市は飛越能地域の交流の拠点という地の利を生かして、域内の名産品の販売、試食、宣伝、運営企画を考える。          ・さらに、全国のまちの駅ネットワークを活用し、九州の食材、東北の食材、太平洋の食材などを活用した食事メニューの検討を行う。          ・3密に対応した運営企画として、九州など遠方のまちの駅同士のオンライン交流を試行する。相互に地酒や食材を送付し合い、オンラインで繋げた状態でコミュニケーションを図る。その際に、小旅行的にまちを動画等で紹介することで富山の雰囲気を感じてもらい、アフターコロナには来訪してもらえるようにPRを行う。本事業では、そのための動画づくりやオンライン交流のノウハウを互いに学び合う。</p> <p>・富山県内のまちの駅ネットワークを活用し、少人数でニーズに合った訪問者の対応を分散型で行うことで、3密の回避を行いつつ、地域観光を楽しんでもらうプログラムを開発する。          ・3地域の特長を生かした観光メニューを考案することで、富山の魅力向上、再発見につなげる。          ・バーチャル観光などのオンラインを活用した発信を、全国のまちの駅ネットワークを活用して行うことで、アフターコロナにおける誘客に向けた取り組みとなる。</p>
<p>7)効果及び継続性</p>	<p>(1)情報発信について広報等について工夫する点          ※発信力が高いことも記述すること</p> <p>(2)他産業を含む地域一体に広く効果・成果をもたらす、本事業終了後も、継続的な利益が見込まれる工夫</p> <p>(3)本事業終了後、翌年度以降の持続的な実施を想定している点</p> <p>(4)ほかの観光インフラ整備等(Wi-Fi環境等)と連携して検討している点</p>	<p>・全国まちの駅連絡協議会は全国1550か所のまちの駅をネットワークさせ、地域のおもてなし活動を推進してきた。これまでいわゆる口コミネットワークを中心に対面型の交流・情報発信をしてきたが、インバウンド対応やICT化の推進が課題となっている。          ・本事業は、高岡市を中心にした富山県をフィールドに、各地でまちづくり活動を進めるまちの駅運営メンバーを招いて、よそ者の目から見た地域資源の魅力向上の検討と、市外や県外との連携によるまちづくりのコラボレーションや新たな観光プランを創出することを目指して実施する。ワークショップに参加した他県のまちの駅メンバーと顔の見える関係を構築することで、地元での口コミ活動による継続的な富山観光の情報発信が期待できる。          ・今後、ICT化の推進、SNSを活用した情報発信を試みるとともに、まちの駅の口コミネットワークの利点も生かしていくことで、情報発信力を高めていく。          ・事業で得た知見やノウハウは、全国のまちの駅との共有化の中で連携を推進する。とりわけ、近隣の石川県や福井県などのまちの駅ネットワークとの連携強化を図ることで、近隣観光の促進を図る。まちの駅が設置されていない石川県能登地域や岐阜県飛騨地域では、まちの駅以外の観光関連組織との連携を模索する。</p> <p>・まちの駅は様々な業態を生かした観光プログラムを作成し、まちの駅ネットワークで生業観光を進めるとともに、同業種仲間との連携を図っていく。          ・単体の市町村ごとに情報発信するのではなく、連携する3市がそれぞれの持つ個性を生かし、全体としての魅力を高めることで、来訪者の獲得を目指す。          ・歴史資源が豊富な高岡市では、日本遺産「加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡」と大伴家持「万葉の里」2つの地域ストーリーづくりと「地旅」の商品づくりを考える。          ・本事業において全国のまちの駅との物産交流とともに富山のバーチャル観光を試行することで、関係人口の創出につながる情報発信となり、相互の行き来を誘導することにつなげていく。</p> <p>・まちの駅という仕組みの中で、県内のまちの駅同士、近隣のまちの駅との連携強化を図り、共同事業化を進めて行く。          ・まちの駅全国大会等で本事業の活動報告を行い、注目を集めて関心を高めていく。          ・SNSの活用テクニックをマスターすることで、情報発信力を高める。継続的検討テーマとして、県内のユーチューバーにまちの駅大使を委嘱することで、ユーチューブでの発信機会を増やすように誘導していく。          ・全国のまちの駅仲間とも連携を図り、相互の観光資源を情報発信し、物産販売なども相互応援の関係を構築する。こちらからも積極的に全国のまちの駅に出掛けていき、富山のPRをすることも重要であると考えている。</p> <p>・中心市街地活性化に成功した富山市では、コンパクトシティ化の中で「新しい生活様式」を構築することが課題である。他市のこととせず、今後のまちづくりの共通課題と考え、まちの駅連携の中で様々な企画・提案を考えていきたい。          ・アフターコロナ時に実際に来訪を促す仕掛けづくりとして、本事業のオンライン交流で使った商品を継続的に販売できるルートづくりが重要な課題である。クーポン券の発行など、具体的な展開を検討していく。</p>

※必要に応じて欄を拡大して記載してください。複数枚となっても構いません。

※取組の内容が法令に違反することが判明した場合、又は、申請の内容に虚偽があった場合には、直ちに選定を取り消し、支援額の全額返還を求めることがあります。